

平成28年度 「中学生チャレンジテスト」における 大桐中学校の結果の分析について

大阪府による「中学生チャレンジテスト」について、平成29年1月12日（木）に、第1学年と第2学年を対象として、教科に関する調査と生徒アンケートを実施しました。

大阪府教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- ① 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- ③ 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- ④ 生徒一人ひとりが、自らの学習到達度を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
- ⑤ 大阪府教育委員会は、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。

2 調査の対象

- ・ 大阪府内の市町村立中学校、特別支援学校及び府立支援学校中等部の第1学年、第2学年
- ・ 大桐中学校では、第1学年146名、第2学年165名

3 調査内容

- ① 第1学年で、国語、数学及び英語
第2学年で、国語、社会、数学、理科及び英語
- ② 生徒アンケート

平成28年度「チャレンジテスト1・2年」検証シート

学校名 **大桐中学校**

実施日 平成29年1月12日(木)

【第1学年】

生徒数(人) **146**

平均点(点)

	国語	数学	英語
学校	66.9	43.1	53.4
大阪市	67.0	50.6	60.8
大阪府	68.3	52.5	62.7

平均無解答率(%)

	国語	数学	英語
学校	2.4	4.9	5.5
大阪市	3.6	6.2	5.0
大阪府	3.4	6.1	5.1

結果の概要

国語については、大阪市平均と、ほぼ同じであった。しかし、数学と英語については、大阪市平均と比較し、7.4～7.5ポイント下回った。

無解答率については、大阪府・市平均と比較し、国語と数学については1.2～1.3ポイント低かったが、英語については、0.5高かった。

成果と今後取り組むべき課題

中学校に入学してから、落ち着いて授業に取り組んでいるが、数学・英語の結果から基礎学力の定着に関する課題が明らかとなった。普段から宿題等の提出物(復習)や授業準備(予習)が身につけられるよう、教科担当教員や担任などの工夫や声掛けをさらに徹底していきたい。今後は、自ら進んで学習に取り組めるよう課題の精選を行い、今まで以上に積極的な学習姿勢を促し、自学自習の定着化を図っていきたい。

【第2学年】

生徒数(人) **165**

平均点(点)

	国語	社会A	数学	理科B	英語
学校	57.0	50.5	47.0	56.1	48.0
大阪市	56.9	43.1	49.6	59.5	51.3
大阪府	58.1	43.8	51.3	60.1	53.3

平均無解答率(%)

	国語	社会A	数学	理科B	英語
学校	7.6	7.1	12.0	5.8	7.7
大阪市	6.9	10.6	13.0	5.4	7.2
大阪府	6.3	10.3	12.6	5.7	6.8

結果の概要

社会については、大阪市平均と比較し、7.4ポイント高かった。国語については、大阪市平均とほぼ同じであった。しかし、数学・理科・英語については、大阪市平均と比較し、2.6～3.4ポイント下回った。

無解答率は、社会については、大阪市平均と比較し、3.5ポイント低く、数学についても1ポイント低かった。しかし、国語・理科・英語については、大阪市平均と比較し、0.4～0.7ポイント高かった。

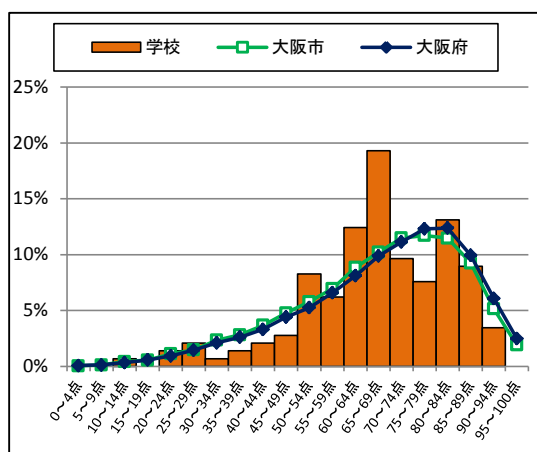
成果と今後取り組むべき課題

社会で大阪市平均を大きく上回ることができたのは、定期テストの再テストや自主学習ノートの取り組みが成果に表れたと思われる。国語でも、大阪市平均を若干上回ることができ、朝読書の取り組みの成果だと考えられる。しかし、数学・理科・英語については、大阪市平均を下回り、課題を残したが、普段の授業においては、落ち着いて取り組み、課題提出も比較的できている。今後は、基礎・基本の更なる定着へ向けて繰り返し指導、効果的な課題を与えるなどして学力向上を図っていきたい。

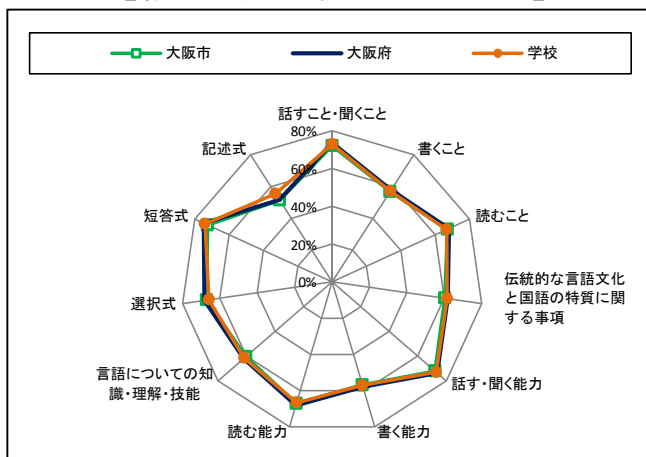
【第1学年 各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

【国語】

【得点分布】

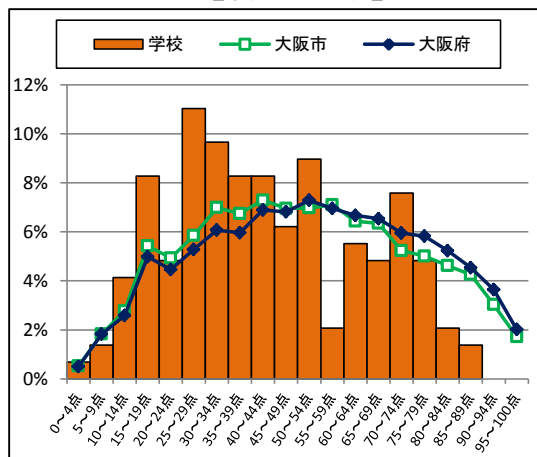


【領域・観点・問題別の分布】

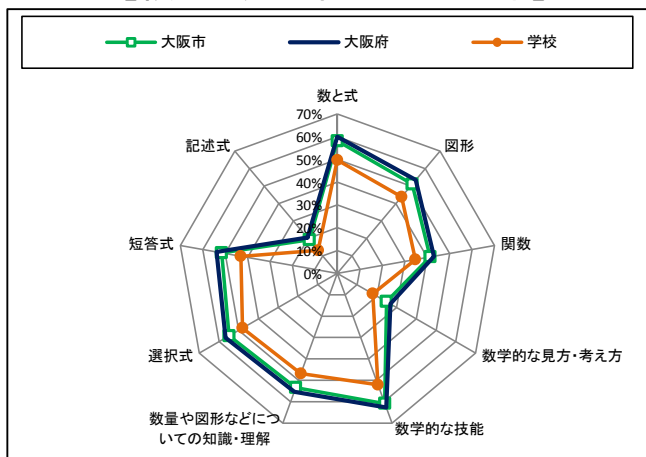


【数学】

【得点分布】

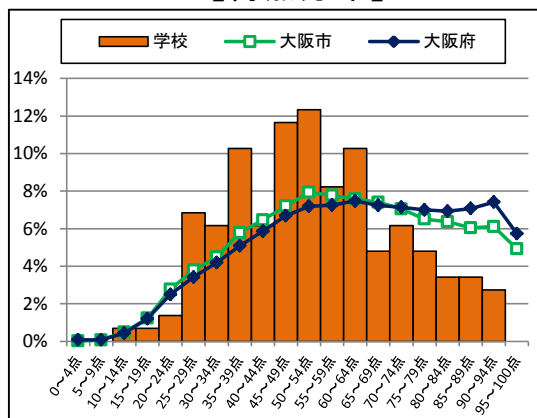


【領域・観点・問題別の分布】

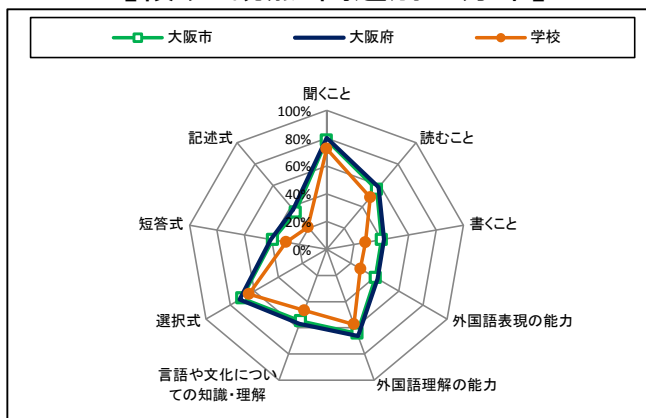


【英語】

【得点分布】



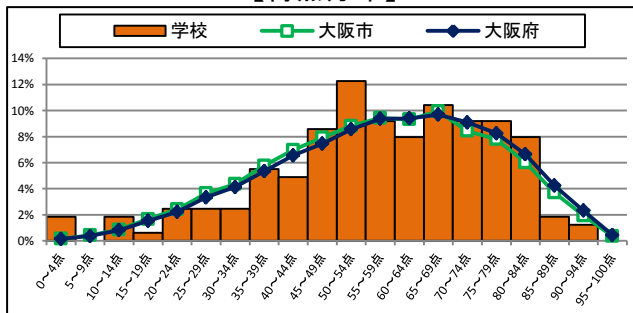
【領域・観点・問題別の分布】



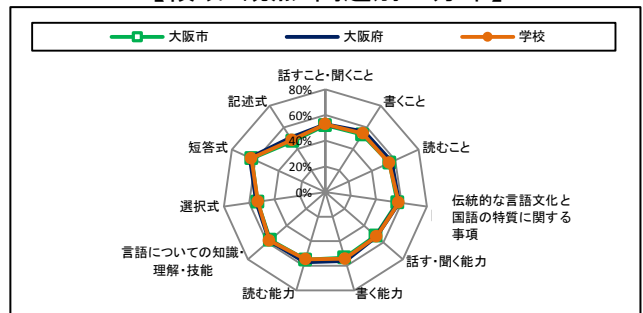
【第2学年 各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

【国語】

【得点分布】

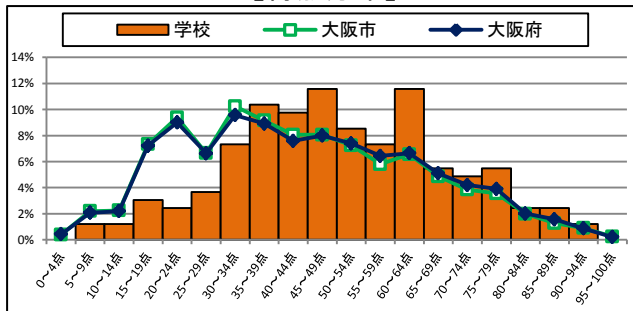


【領域・観点・問題別の分布】

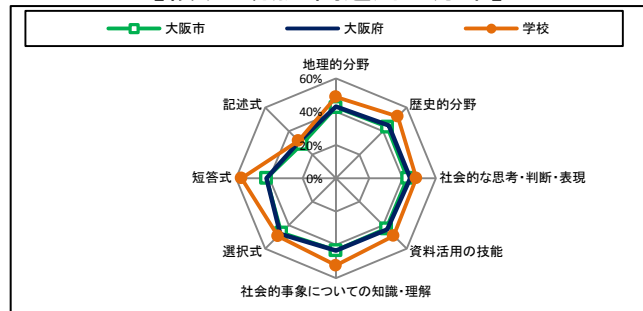


【社会 A】

【得点分布】

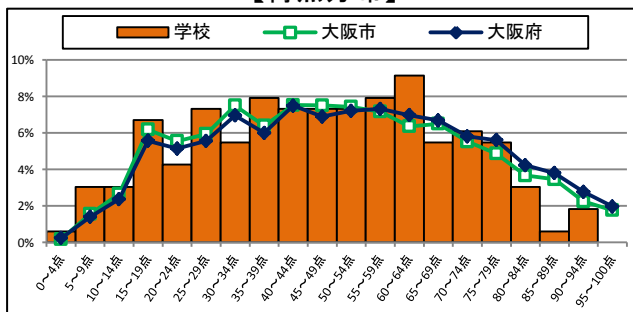


【領域・観点・問題別の分布】

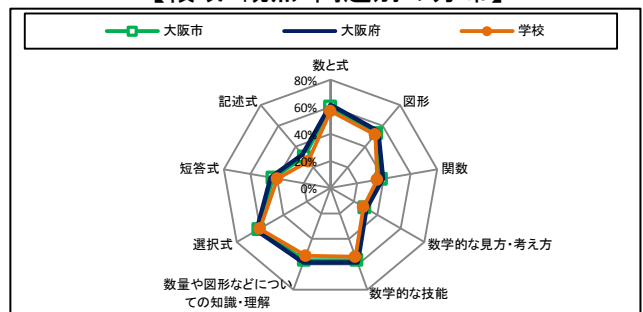


【数学】

【得点分布】

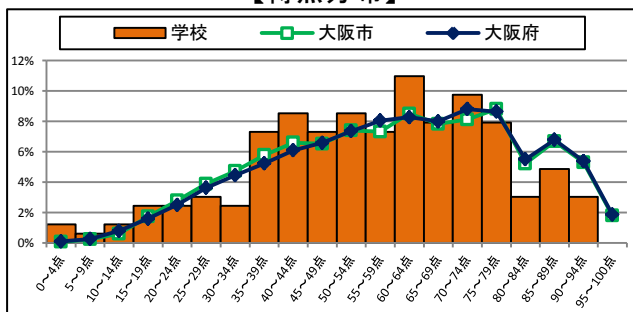


【領域・観点・問題別の分布】

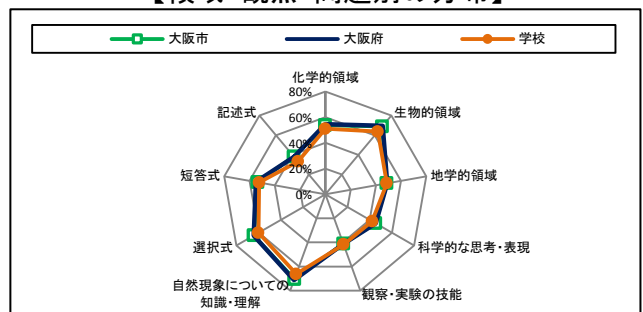


【理科 B】

【得点分布】

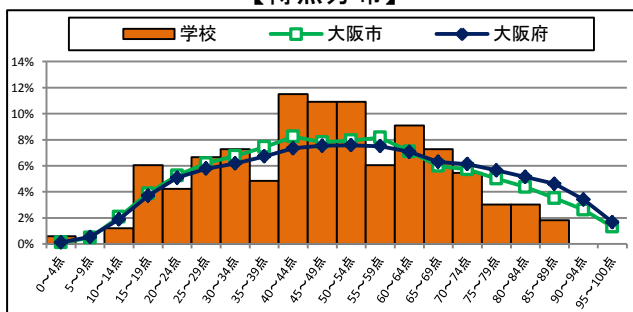


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

